

安心して 入院生活を送るために、 知っていただきたい

せん妄

せん妄 とは

体調や一部の薬の影響によって、意識が混乱した状態をいいます。一時的な症状であり、認知症ではありません。しかし、せん妄状態になると危険な行動をしてケガをしてしまい、病気の回復の遅れに繋がることがあります。せん妄は本人・家族に協力していただくことで予防できる場合があります。

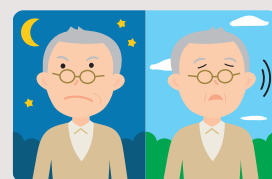
せん妄の症状



落ち着かなくて興奮する



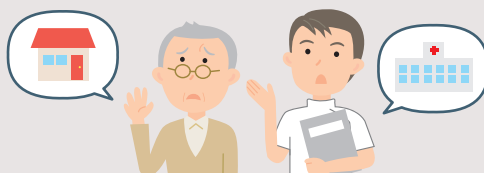
幻覚が見える



不眠・昼夜逆転



会話が
かみ合わない、
ぼんやりする



混乱している
(病院にいることが
わからない、など)

せん妄になりやすい方

- 70歳以上
- 認知症あるいは普段からもの忘れがある
- 以前せん妄になったことがある
- 脳梗塞や脳出血になったことがある
- アルコールを毎日たくさん飲む(アルコールとして一日20g以上)
- 難聴、視覚異常がある
- 痛みが強い、痛みに対し不安が強い
- やる気が起きない、うつのような言動がある
- 入院当日、病室が変わって間もない時期、手術の前、手術後3日以内
- 気管内挿管、点滴、ドレーン、尿道留置カテーテルなどのルートがついている
- 行動制限がある、抑制、マットセンサー、移乗見守りなど
- 睡眠薬を内服している
- 免疫抑制剤、向精神薬を長期服用している

アルコール 20g程度

ビール500ml
日本酒180ml
焼酎110ml
ウイスキー(W)	... 60ml
ワイン200ml

※上記に当てはまらない方でも、入院のきっかけとなった病気の種類や病状によっては、せん妄が起こる可能性があります。(小児の入院患者の約10%でせん妄出現)

せん妄の予防

●入院前・入院するときをお願いしたいこと

- ・普段の飲酒量、服用中のお薬(特に睡眠薬や精神安定剤)をスタッフにお知らせください。
 - ・入院3日前までに禁酒をお願いします。
 - ・以下の物品の持参をお願いします(できる範囲でかまいません)
- ※物品の管理の責任は負いかねますので、ご了承の上、持参できるものを選んでください。

①本人が普段使用している物品(タオルや毛布、ぬいぐるみ、枕、時計、カレンダーなど)

手術を受ける方は、手術の傷にその物品が触れることがあるので、キレイに洗濯をして持参していただくようお願い致します。

②家族・本人が写った写真・アルバム

③本人の小さい頃、若い頃、働き盛りの頃の思い出を、家族の目線で書いたノート

本人が懐かしい時代を思い返すことは情緒を安定させる効果があると言われています

④なぜ入院しているのか、どれくらいここで治療するのか、治療やリハビリが終わるのを家族が楽しみに待っていることなど…が書かれた手紙

見知らぬ病院のスタッフの言葉より安心することが多いです。

⑤本人の愛用しているラジオや好きなCD、DVD(プレーヤー・イヤホンも併せてお願いします)



●入院してから

- ・朝になったらカーテンを開け、夜は明かりを消して昼夜のリズムを整えましょう
- ・昼寝は最小限にして、日中はできるだけ活発に過ごしましょう
- ・時計やカレンダーを周りに置いて、時間の感覚を保ちましょう
- ・普段使用している眼鏡や補聴器があれば、起きている時間は使いましょう
- ・睡眠薬を服用中の方は、せん妄になりやすい薬への変更することがあります



もしせん妄を発症したら

- ・せん妄を治療する薬を使ったり、治療環境の調整を行ったりします。
- ・安全に検査・治療を受けて頂くために、やむを得ず身体抑制が必要となる場合があります。



ご家族の方へ

- ・本人の不安が強くなった場合には、病院スタッフが家族へ電話連絡して本人とお話ししていただくようお願いすることがあります(夜間にお電話することもあります)。
- ・ご本人に混乱があっても、お電話では普段通りのお言葉かけをお願いします。
- ・ハサミなどの刃物などの危険物が手元にあると、せん妄が生じた際にケガの原因になりますので、状況によってはスタッフがお預かりすることがあります。